

# ■ 日本初！北極海航路を利用したコンテナ貨物輸送のトライアルを実施

苫小牧港管理組合 総務部 港湾政策室 政策推進課

令和元年10月9日(水)、コスコ SHIPPING グループが運航する一般貨物船「TIAN EN」により、日本初となる北極海航路を利用したコンテナ貨物のトライアル輸送が実施され、苫小牧港利用促進協議会では、苫小牧寄港を記念して入港歓迎セレモニーを開催しました。

「TIAN EN」は40ftコンテナ20本に北欧産木材を積載し、9月13日(金)にフィンランドのヘルシンキ港を出港、26日間かけて苫小牧港に到着しました。これまで、日本では北極海航路を利用して欧州から飼料や冷凍肉が輸送された実績はありましたが、コンテナで貨物が輸送されたのは初めてのことでした。

北極海航路の利用は夏期限定ではあるものの、一般貨物船の商業利用は増えてきています。一方で、コンテナ船に関しては通年運航ができず、海水状況の変化に伴う航行への影響が懸念されるため、定時性の確保が難しいことや貨物の品質管理などの課題が多く、商業利用には今後も時間を要するものと考えられます。

しかしながら、今回のトライアルを通じて、欧州からの貨物輸送のリードタイムが大幅に短縮されることに対して、荷主の期待が大きいことがわかりました。また、夏期であっても気温が低いいため、リーファーコンテナによらない食品輸送の可能性も大いに期待できるところです。

このため、今回のトライアルでは道内荷主による貨物だけでしたが、今後は道外荷主の貨物集荷も視野に展開できるよう取り組んでいきたいと考えています。

苫小牧港では、平成23年度から北極海航路に関する情報収集に着手し、各種調査やセミナー開催などを行ってきており、昨年度までに、北極海航路を利用した船舶が3隻寄港しており、今回が4隻目の寄港となりました。

今後も、アジアと欧州を結ぶ北極海航路において、地理的優位性からアジア側のゲートウェイとなるポテンシャルを秘めている苫小牧港での利用促進に向けた取組を推進していきます。



「TIAN EN」 全景



コンテナ荷揚げの様子



関係者集合写真



入港歓迎セレモニーの様子